

学校・地域・家庭の様子についてのアンケートから

本年度、保護者の皆さん、全校児童、全教職員を対象に、学校・地域・家庭での生活の様子について『アンケート』の形でお尋ねしたものを、それぞれの見方・感じ方がどのように違うのかあるいは似ているのかなどをくらべてみました。

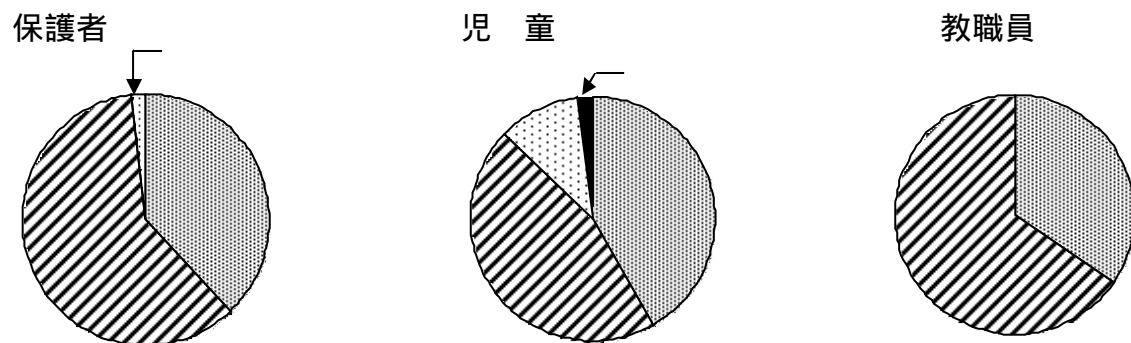
(保護者アンケートは9月の休日参観で、児童アンケートは年度末の「学校生活アンケート」、教職員は自己評価からの集計です。)

よく当てはまる 当てはまる どちらともいえない 当てはまらない

1 学校生活

「児童は、学校に楽しく登校している。」(保護者・教職員)

「学校生活は楽しいですか。」(児童)



保護者・教職員はほぼ全員が楽しく登校できていると思っていますが、児童の数パーセントが当てはまらないと答えていることに対して、日々の生活の中で児童への言葉かけを大切にしなければならないと考えます。

考察から

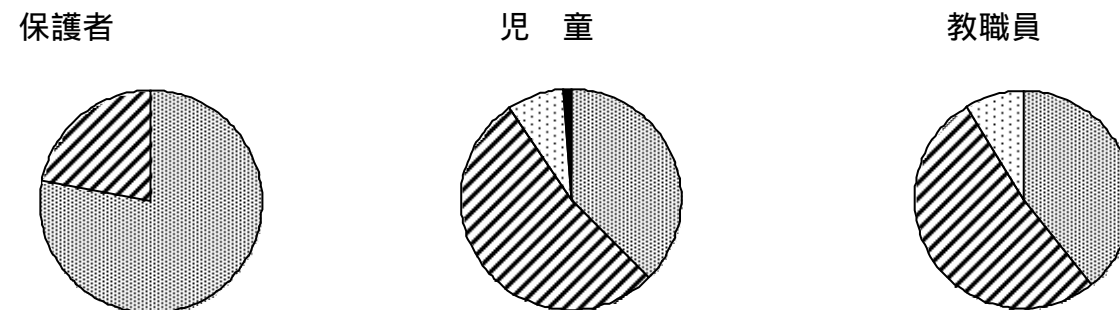
子どもたちの生活の様子を、保護者の皆様、教職員、全校の子ども自身が振り返り合わせて比較するのは、初めての試みです。今回ご紹介したのは、全項目の中のみならず3項目だけですが、多くのことを考えさせられました。特に、一人一人の子どもを大切に見守り育てよう取り組んでいます、大人の目で子どもの自信のなさや思いを見抜くことの難しさを、改めて教えられたように思います。

今後は、地域の方々からもご意見を伺い、「地域ぐるみの学校作り」を行うためにも、子どもを中心に保護者の皆様・教職員・地域の皆様それぞれの思いが少しでも近づき1つになるよう、一層の努力をしてまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願いたします。

2 あいさつ

「児童は積極的に挨拶したり礼儀正しくしたりできる。」(保護者・教職員)

「元気よくあいさつができていますか。」(児童)

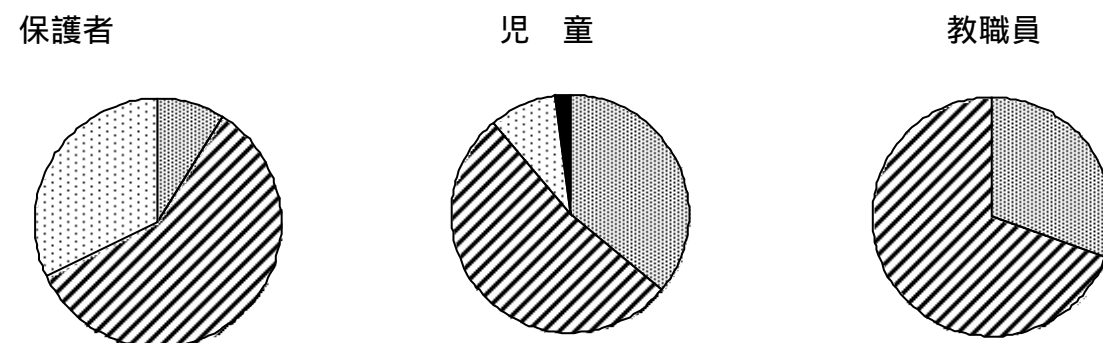


明德校の児童は来校者の皆様から「みんな気持ちのいいあいさつができますね。」とお声をいただきます。そのことが明德の校区の温かさにつながっています。これからもみんなで大切にしていきたいですね。

3 学習

「学習内容が分かり、積極的な学力が身についている。」(保護者・教職員)

「勉強はわかりますか。」(児童)



学習については日々授業や補習の中で基礎学力の定着に向けて取り組んでいます。保護者より「どちらともいえない。」と20パーセントのお答えをいただいています。

アンケートのお答えのパーセントが少なくなり、児童が「勉強がわかる。」と答えられるよう日々取り組んでいきたいと思っています。これからも皆様のご支援よろしく御願いたします。